

2020 年度事業報告

特定非営利活動法人 日本脳性麻痺・発達医学会

1 活動の成果

1.1 脳性麻痺に対する横断的医療の基礎作り

- 第2回 CP フォーラムは新型コロナウイルスの流行に伴い延期せざるを得なくなった。大阪、千葉における地域の多職種に対するセミナーおよび市民公開講座も中止された。
- これらに代えて無料の CP 治療セミナーを Web で開催し、知識の普及と地域連携の育成を行った。小児科、整形外科、リハビリテーション科医師、PT, OT, ST および看護師、義肢装具士等多くの職種が参加し、症例検討を通じて連携医療のあり方を認識した。

1.2 国際標準医療の導入

- 米国コロンビア大学から講師を招き、信濃医療福祉センターおよび福島県総合療育センターにて講演および症例検討を行う予定であったが、新型コロナウイルス流行の影響で実現しなかった。
- アメリカ脳性麻痺・発達医学会（AACPDM）には Web で参加し、国際的な知見を得た。

2 事業の詳細

2.1 第2回 CP フォーラム（仙台）の準備

- 会期：2021年3月13日～14日に延期
- 形式：Zoomを用いたオンラインセミナーに変更
- 2020年度の活動内容：会長を含めた理事3名がWebを通じた遠隔会議によってコロンビア大学の顧問と検討を重ね、プログラムを作成した。
 - ✓ 当初はコロンビア大学脳性麻痺センター、ハーバード大学整形外科（ボストン小児病院整形外科）の教授陣を招聘し、さらに国内の小児神経科、小児整形外科のエキスパートによる講演、討論、ハンズオンセミナーを予定していた。
 - ✓ Web開催となったためコロンビア大学からの4講演および沖縄、横浜、神戸、大阪、北海道からの講演・症例提示となった。

2.2 CP ウェブセミナー2020開催

- 会期：2020年10月18日（日）9時30分～12時30分
- 形式：Zoomを用いたオンラインセミナー
- 目的：集中リハビリテーションと痙縮治療における知識の普及と多職種連携の推進
- 対象：医療・教育・保健・福祉など脳性麻痺に関わるすべての職種の方々
- 参加費：無料

- プログラム
 - ✓ シンポジウム「片麻痺に対するエビデンスに基づく集中治療の実際」
 - ✓ 講演「多職種連携による包括的痙縮治療」
千葉県千葉リハビリテーションセンター 愛育園長・第一小児科 石井光子先生
- 職種別参加人数

| | | |
|-----|-------------|-----|
| 医師 | 小児科・小児神経科 | 85 |
| | 整形外科・小児整形外科 | 5 |
| | リハビリテーション科 | 7 |
| 療法士 | PT | 168 |
| | OT | 92 |
| | ST | 4 |
| 看護師 | | 8 |
| その他 | | 14 |
| 合計 | | 383 |

3 事業実施体制

3.1 会議に関する事項

- 通常総会：郵送による紙面にて決議
 - ✓ 2019 年度事業報告、決算報告の承認
 - ✓ 2020 年度事業計画、活動予算の承認
- 理事会
 - ✓ 第 1 回理事会：2020 年 10 月 8 日 (Web)

3.2 事務局体制

- にこにこハウス医療福祉センター内
- 事務局長：松村 伸寿

3.3 ホームページ運営

- 特定非営利活動法人障がい者就労支援の会「あかり家」に委託
- <https://www.jacpdm.org/>

3.4 会員

- 正会員 医師 49 名、他職種 23 名
- 賛助会員 個人 2 名、団体 6 名